

## I 目指す学校像

### ◇スクールミッション

「生徒が安心して学ぶ、保護者・地域と共に育つ学校」として、主体的に社会に貢献する人材、個人を尊重し個性や多様性への寛容さを持ち、他者と協働して新しい価値観を創造できる人材、心身ともに健康的な生活ができる人材、蓄積された知識を礎にして、さらに生涯にわたって探究する意欲を持った人材を育成する。

### ◇グラデュエーション・ポリシー

- ・多様性を受容し、他者と協働して主体的に問題を解決する能力。
- ・物事を多面的にとらえ、新しい価値観を創造し、より良い社会を形成する資質・能力。
- ・「知」「徳」「体」をバランスよく伸ばし、生涯を通じて、健康を保持・増進する能力。

### ◇カリキュラム・ポリシー

- ・個別最適な指導で基礎学力等の向上を図り、主体的な進路選択ができる力の育成。
- ・地域と連携した活動を通して社会に貢献し、豊かな創造性と人間性の育成。
- ・在京生徒の能力に応じた学習の場の確保による、日本語能力、基礎学力の向上。

### ◇アドミッション・ポリシー

- ・文化の多様性を尊重し、心身ともに健康で規範意識をもった生徒。
- ・日々の努力を惜しまず、適切な情報を収集・分析し、自己実現に向けて努力できる生徒。
- ・学校生活の充実を図るため、部活動、委員会活動、学校行事等に懸命に取り組む生徒。

## II 中期的目標と方策

- |   |             |   |
|---|-------------|---|
| 1 | 伸びる学習指導     | 基礎・基本の定着と家庭学習時間の向上を図り、主体的に学ぶ力を育てる学習指導を行う。                                 |
| 2 | かなう進路指導     | 3年間のキャリア教育全体計画をもとに学年ごとの指導の重点を設定した進路指導を行う。                                 |
| 3 | 安心の生活指導     | 家庭・地域と連携して、生徒が安心して生活できるよう規範意識を養う生活指導を行う。                                  |
| 4 | (1) 燃える学校行事 | 協働・フェアプレーの精神を養い、自己肯定感を高めるような学校行事を実施する。                                    |
|   | (2) 輝く部活動   | 心身を鍛え、集団生活における帰属意識や連帯・協調の精神を養う部活動を展開する。                                   |
|   | (3) 体力向上    | 生涯の健康に関する理解を促進するとともに、総合的な生徒の基礎体力の向上を図る。                                   |
| 5 | 地域連携        | 近隣地域の諸機関・住民との交流活動を積極的に行い、地域との連携協力体制を確立する。                                 |
| 6 | 学校経営        | 全教職員が丸一となって生徒・保護者・地域住民から信頼される学校運営を行う。<br>生徒が安心して学び、保護者・地域と共に育つ学校づくりを推進する。 |

## III 取組目標と方策

### 1 教育活動の目標と方策

#### (1) 学習指導

- ①社会の変化に柔軟に対応し、いかなる状況下であっても、学びを止めないよう一人1台端末整備を有効に活用し、思考力、判断力、表現力の伸長を図る。
- ②教科ごとに、定期考査の結果を分析し、学習指導力の向上を図る。
- ③少人数編成授業、習熟度別授業等を取り入れ、個に応じた丁寧でわかりやすい授業を展開する。
- ④長期休業期間を利用して、基礎・基本の徹底、進路実現を見据えた補習・補講を計画的に実施する。
- ⑤予習・復習を前提とした授業を展開し、家庭学習習慣の定着を図る。
- ⑥在京外国人生徒の学校設定科目「日本語」の設置や、取り出し授業等の実施により、在京外国人生徒対象の学習の場を確保し、日本語能力および基礎学力の向上を図る。
- ⑦体育授業を充実させるとともに、運動が苦手、運動嫌いの生徒の基礎体力を向上させる教育を推進する。
- ⑧図書館利用者数を増加させ、生徒が本に親しむ機会を増やし、読書率の向上を図る。

## (2) 進路指導

- ①1 年次より面接週間を設定し、三者面談を行うなど計画的なキャリア教育を意図的・継続的に行う。
- ②多様化した生徒のニーズに応えるために、進路情報の収集・発信を積極的に行うとともに教員向研修会も実施する。
- ③関係諸機関と連携し、外部講師によるガイダンス等実施し、主体的な進路選択ができるよう支援する。
- ④部模試実施後の分析会を活用し、効果的な進路指導を実施する。
- ⑤公務員志望者、民間企業就職希望者の指導の充実を図り、進路未決定者を減少させる。

## (3) 生活指導

- ①ルール、マナー・モラルを守り社会に適応できる生活指導を行い、思いやりと規範意識を育成する。
- ②いじめアンケートの実施、いじめ対策委員会の開催・校内研修等によりいじめを根絶するとともに、スクールカウンセラーと連携し、学年集会やロングホームルーム等の機会を捉えて自殺防止教育を推進する。
- ③頭髪指導、服装指導、遅刻指導等を教員間で一貫した指導を行う。
- ④自転車運転指導を中心とした交通安全教育、警察と連携した薬物乱用防止教室の実施、SNS 府西ルールを基に情報モラルの向上を図り、生活安全教育を推進する。
- ⑤校内清掃、校内美化に一層力を入れ、落ち着いた安心・安全な学習環境を持続させる。

## (4) 学校行事 部活動 体力向上

- ①生徒が主体的・協働的に活躍し、達成感・共感を得ることで、自己肯定感が高まる学校行事を実施する。
- ②部活動の活性化に努めるとともに、フェアプレーの精神、チームワーク、相手を思いやる心の育成を図る。
- ③文化スポーツ推薦入試実施の部活動をはじめ、運動部文化部ともに成果発信の機会を工夫し、各部活動の推進を図る。
- ④体育授業を充実させるとともに、運動が苦手、運動嫌いの生徒の基礎体力を向上させる教育を推進する。
- ⑤オリンピック・パラリンピックのレガシーの構築を図り、健康で充実して生活を送るための生涯スポーツの基盤をつくる。
- ⑥学校行事、防災教育活動等を通して、近隣地域と連携協力体制を確立し、ボランティアマインドを醸成する。
- ⑦年度初めにスクールカウンセラーと生徒の全員面接等を実施し、丁寧で的確な教育相談を実施する。

## (5) 地域連携

- ①市内の近隣小・中学校でつくる青少年対策委員会等に参加し、地域との連携協力体制を強化する。
- ②同窓会・PTA活動に積極的に関与することで、教育活動への協力支援体制を構築する。
- ③地域からの要望を踏まえて施設開放日を設定するとともに、公開講座を実施するなど開かれた学校づくりに努める。

## (6) 学校運営

- ①体罰等服務事故防止の校内研修会を年間3回以上実施し、服務事故を根絶する。
- ②経営企画室と連携し、教職員がやりがいをもって校務に取り組める校内体制をつくる。
- ③「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、部活動指導員の配置等行いのライフワーク・バランスを推進する。
- ④ホームページの充実を図り、生徒募集の広報活動の方法を工夫することにより入学者選抜倍率を上昇させる。
- ⑤特別支援コーディネーターを複数名配置し、特別支援教育、特に発達障害教育に対応できる体制を構築する。
- ⑥「東京グローバル人材育成指針」に基づき、多文化共生の精神の涵養と協働する力を育成する。

## 2 重点目標と取組

- (1)・定期考査の結果の分析等を行い、日々の授業改善を図り、生徒の授業満足度を85%以上とする。
  - ・適切な課題等出すことにより、予習・復習等の家庭学習に積極的に取り組む生徒の割合を50%以上とする。
  - ・生徒が本に親しむ環境を整備し、図書館の本の年間貸出数を1500冊以上とする。
- (2)・個に応じた計画的な指導や的確な情報発信により、生徒の進路指導満足度を85%以上とする。
  - ・学年と連携体制を強化した進路指導により、卒業時の進路決定率を95%以上とする。
- (3)・基本的生活習慣を重視した指導の徹底により生活指導が適切に行われていると評価される割合80%以上とする。
- (4)・近隣中学校や地域住民への広報により、文化祭等への来校者数を2300名以上とする。
  - ・部活動における達成感、やりがい等を全校生徒にアピールし、部活動参加率90%以上とする。
- (5)・地域青少年対策委員会等と協力し、生徒が参加する地域行事を8回以上とする。
- (6)・校内研修、職員会議、朝の連絡会等で服務事故防止を啓蒙することにより、服務事故発生を0件とする。
  - ・府中西高校の魅力積極的にアピールすることにより、学力による選抜の入学者選抜倍率を1.30倍以上とする。
  - ・近隣の中学校、学習塾を訪問するなど広報活動に努め、学校説明会への参加者数を延べ2300名以上とする。